

種名	<p style="text-align: center;"><u>ヤマカガシ</u></p> <p style="text-align: center;"><u>Rhabdophis tigrinus tigrinus</u></p> 
分類	有鱗目ナミヘビ科ヤマカガシ属
形態的な特徴	<p>全長 70～150cm。褐色の地色に黒色の斑紋があり、そのあいだに黄色や赤色が混じる。地域による色彩変異が大きく、関東地方のものは赤みが強く斑紋がはっきりしているが、関西のものは一様に褐色で黒斑が不明瞭、九州のものは黒斑が大きく全体に黒みを帯びている。体鱗には顕著なキール(隆条)がある。幼蛇は首の後の黄色い帯がよく目立つ。ヤマカガシが毒を持つことはあまり知られていないが、上あごの後方には一対の毒牙があるほか、頸部には有毒物質を分泌する頸腺がある。</p>
分布	本州、四国、九州。島嶼では、佐渡島、隠岐、壱岐、五島列島、甞島列島、屋久島、種子島に分布する。
繁殖行動	<p>メスは6～8月頃、石の下などに長径約3cm、短径約1.7cmのやや細長い卵を8～30個ほど産む。卵は8～9月に孵化し、約22cmの幼蛇が産まれる。産まれたヘビは翌秋には初めての交尾をし、さらにその翌年の夏に最初の産卵を行なう。他のヘビに比べ比較的寒くなっても活動し、平地では11月下旬頃から石垣の中などで冬眠に入る。野外での寿命は数年で、アオダイショウやシマヘビに比べると短い。</p>
生息場所	平地から山地まで生息している。ヤマカガシの主食であるカエル類の生息する水辺に多く、水田や河川周辺のほか、山地の谷川の周辺に生息している。
食性	おもに昼間活動し、両生類(とくにカエル)や魚類を専門に捕食する。シマヘビよりカエル食が強い。
生息環境への配慮事項	<p>農村環境ではもっとも普通に見られるヘビで、個体数も多い。しかし近年では、水田の整備などの影響により主食となるカエル類が種数、個体数ともに減少しているため、それに伴ってヤマカガシも減少している。ヤマカガシが生息するためには、すみかとなる石垣や草むらなどの空間のほか、餌となるカエル類が豊富に生息していることが必要である。つまり、カエル類が減少することは、捕食者であるヘビ類の減少にもつながる。したがって、農地整備等を行なう際にはヘビ類の生息空間を確保するだけでなく、カエル類をはじめ餌資源である小動物の生息が可能となるよう留意しなくてはならない。</p>
引用文献： <a href="http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html">http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html</a> を改変	